

～さわやかな

笑顔

みどり学年～



明石市立二見中学校  
71回生  
第3学年 学年通信  
平成30(2018)年11月1日(木)

NO. 152

## ♪文化祭を終えて ～tre～

僕は今回の文化祭で初めて指揮者をしました。初めてだったので何をしたらいいのかわからず、とても困っていました。でも、クラスみんなが必死に頑張っている姿を見て、自分もできる限りのことをしようと思いました。まずは歌詞の意味を理解して、それをふまえてどう歌いたいのかを考えました。他の人がどんな指揮をしているのかを動画で見て勉強したりもしました。そのうち楽しみながら指揮をふれるようになりました。僕が楽しく指揮をふれたのも、伴奏者がとても頑張ってくれたり、パートリーダーを中心に一人一人が思いを届けたいと思って歌ってくれたからだと思います。本番では、目標だった金賞をとることができて、とても嬉しかったです。体育大会で悔しい思いをしてから、文化祭では絶対に金賞をとろうと思ってきたので、クラスの団結力も更に深まったと思います。二大行事は終わったけど、進路に向けて頑張ろうと思います。(7組 男子)



私が文化祭を振り返って感じたことはたくさんありました。その中でも、やはり合唱に対しては感じるものが多くありました。練習するたびに「あっ、前より良い！」と思う、達成感や喜び、うれしさ、全員で合わせたときの団結感や気持ちよさ。とても嬉しかったです。でも、「これでいいのか？」と不安になったり、あせったりすることもたびたびありました。

最後には金賞をとれなかったけれど、そのたくさん感じたことを、クラスで分かり合えることができたことも良い経験となり、「賞」というものはもちろんありませんが、そうだとっても、歌うことを頑張ってくれた人は、それぞれが何かのうちこむことの楽しさや、うまくできないときの悔しさなどを知ることができたと思います。(1組 女子)



今回の文化祭はいつもの文化祭とは違う感覚の文化祭でした。1、2年生の時の文化祭は、委員会などに入っていたわけではないので、リーダーの指示に従って歌っていたので、あまりやり終えた後の達成感や充実感はありませんでした。でも、中学校生活最後の大事な文化祭の時に、文化祭の中心的存在である文化委員になりました。自分の1つ1つの行動が、クラスの良し悪しに関わる立場だったのでとても緊張しました。しかし、クラスの良い時も悪い時も、みんながついてきてくれていたので、クラス一丸とな



ることができました。担任の微微先生や、女子の文化委員に助けられてばかりでしたが、最後はみんなの思いが1つになり金賞をとることができました。このクラスで1つになってとった金賞を、とって終わりにするのではなく、これからの日々の学校生活や授業、受験に向かっていけるようにしたいです。5組の文化委員として、文化祭を終えることができて本当に嬉しいです。(5組 男子)

中学校生活最後の文化祭が終わりました。今年は金賞をとることができました。取り組みが始まって大変なこともたくさんありました。体幹トレーニングをして、風船をふくらませたりなど、文化祭に向けてできることはすべて挑戦しました。初めは強弱や細かい所がうまくいかないこともあった。でも私は、みんな一人一人が自分の限界までして、笑顔で歌って楽しむことが、クラスにとってもいいことだと思った。パートで練習するときに「どうすればもっとよくなるか」など、考えることもたくさんあった。でも、そんな時にパートリーダーが支えてくれた。困った時には一緒に考え悩んだこともあった。私はその時、仲間の大切さや絆を感じることができた。もし、今回の文化祭が金賞でなくても、私はまったく後悔のない文化祭になったと思う。なぜなら、みんな笑顔で一人一人が精一杯歌うことができたと思うから。3年生最後の文化祭、今までで一番最高の作品になったと思う。仲間の大切さ、団結する力強さ、この短期間の中で私は、人生の中でとても大切なことに気づくことができた。(4組 女子)



## 明石市中学校連合音楽会に行きました

10月31日に明石市民会館大ホールで、明石市中学校連合音楽会がありました。市内各中学校の文化祭最優秀クラスなど、それぞれの学校代表が参加しました。二見中学校からは合唱部と3年生選抜合唱団が合唱を披露しました。合唱部は「Gifts」と「母の手」を、選抜合唱団は「アイダ(連合音楽会バージョン)」を、大ホールに響かせました。代表にふさわしい発表で、二見中学校の合唱のレベルの高さをアピールできたのではないかと思います。3年生の学年にとっては、卒業式の合唱が集大成となります。文化祭や連合音楽会での経験をいかし、感動的な合唱を楽しんでいます。

